

信濃川の景観に関する意識調査

信濃川のあり方検討委員会

もくじ

1. 調査の概要	1
2. 単純集計結果	2
3. 調査結果のまとめ	16
4. 傾向と分析	19

1. 調査の概要

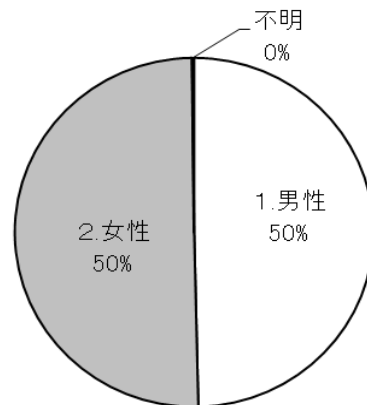
- 1) 調査期間 平成 26 年 1 月 15 日 (水) ~平成 26 年 1 月 31 日 (金)
- 2) 対象者
十日町市にお住いの方々から、約 3,000 人を無作為抽出
- 3) アンケート方法
アンケート用紙を対象者へ郵送
- 4) アンケート回収方法
返信用封筒にて返送
- 5) 回収サンプル数および回答者属性
1636 サンプル (回収率 54.5%)

2. 単純集計結果

■Q1. 回答者の性別

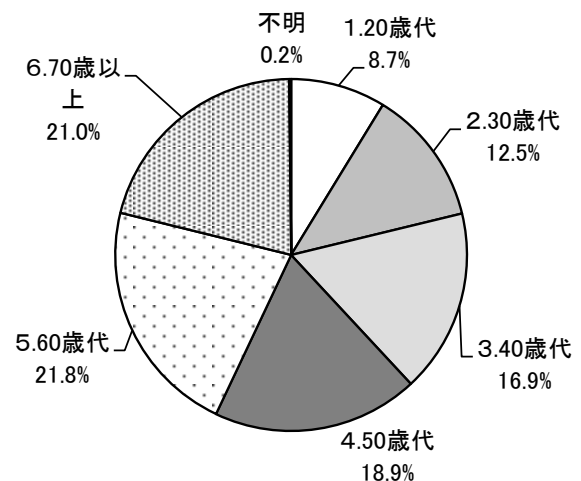
カテゴリー名	n
1. 男性	812
2. 女性	821
不明	3
全体	1636

※不明：無回答、誤回答



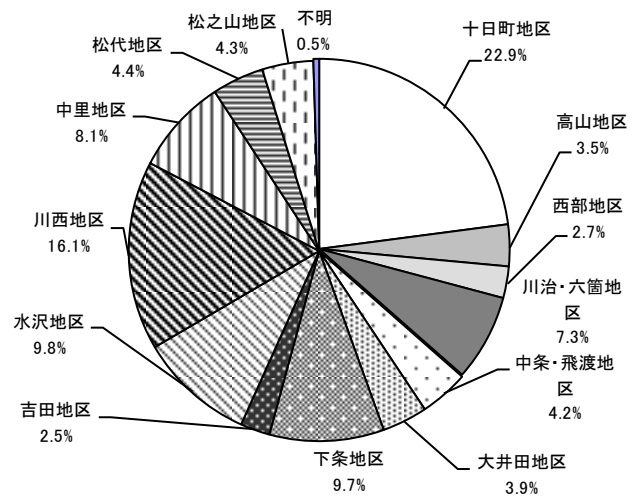
■Q2. 回答者の年齢

カテゴリー名	n
1. 20歳代	143
2. 30歳代	204
3. 40歳代	276
4. 50歳代	310
5. 60歳代	357
6. 70歳以上	343
不明	3
全体	1636



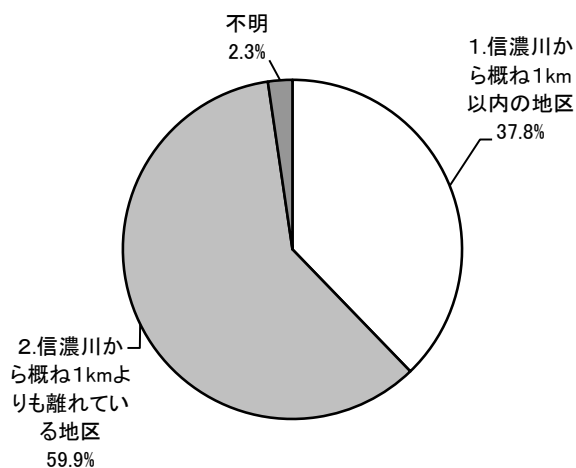
■Q3. 回答者の住まい

カテゴリー名	n
十日町地区	375
高山地区	58
西部地区	44
川治・六箇地区	120
中条・飛渡地区	68
大井田地区	63
下条地区	159
吉田地区	41
水沢地区	161
川西地区	263
中里地区	133
松代地区	72
松之山地区	71
不明	8
全体	1636



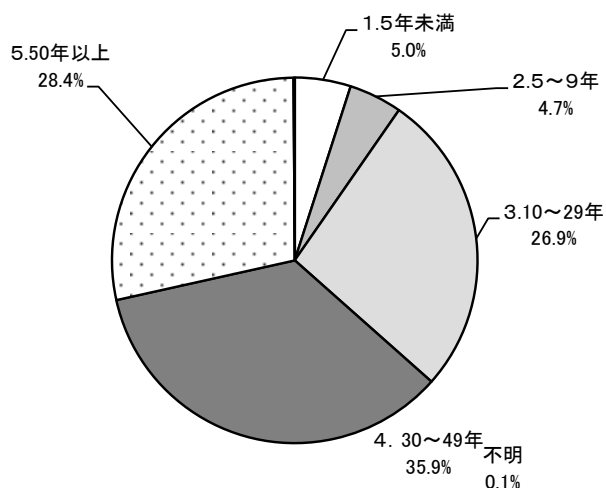
■Q4. 回答者の住まい（信濃川からの距離）

カテゴリー名	n
1. 信濃川から概ね1km以内の地区	618
2. 信濃川から概ね1kmよりも離れている地区	980
不明	38
合計	1636



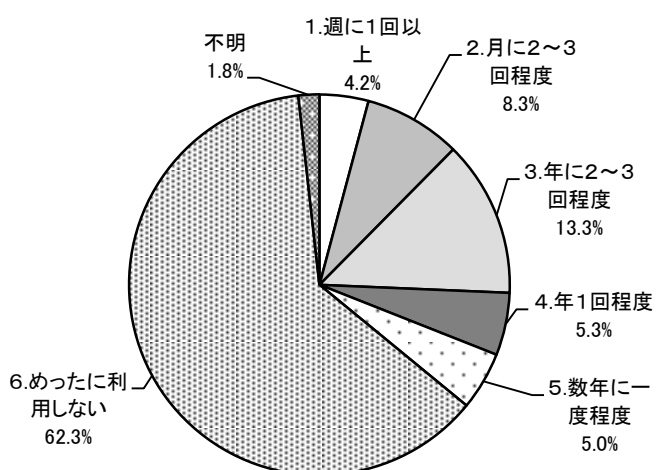
■Q5. 回答者の居住歴

カテゴリー名	n
1. 5年未満	81
2. 5～9年	77
3. 10～29年	440
4. 30～49年	572
5. 50年以上	464
不明	2
合計	1636



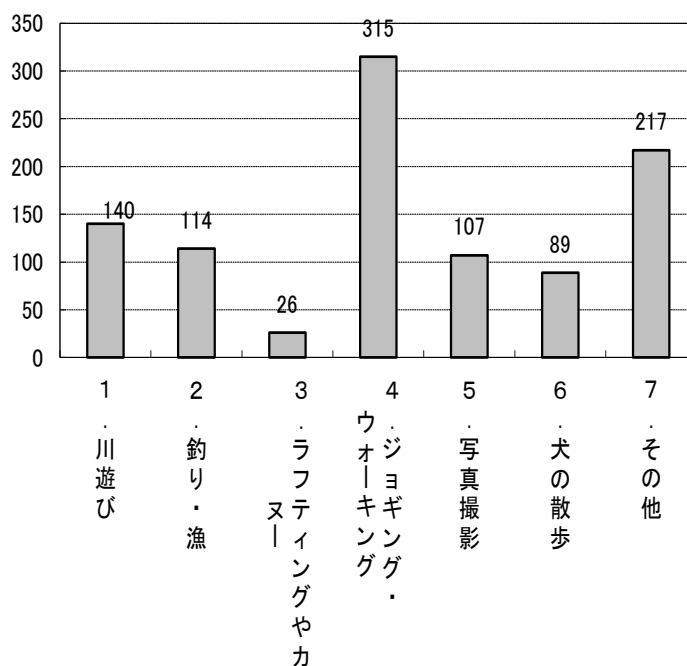
■Q6. 信濃川（水面や河川敷、堤防などを含む）をどのくらい利用していますか。

カテゴリー名	n
1. 週に1回以上	68
2. 月に2～3回程度	135
3. 年に2～3回程度	217
4. 年1回程度	87
5. 数年に一度程度	81
6. めったに利用しない	1019
不明	29
合計	1636



■Q7. 利用目的は何ですか？ 該当するものをすべて選んでください。

カテゴリー名	n
1. 川遊び	140
2. 釣り・漁	114
3. ラフティングやカヌー	26
4. ジョギング・ウォーキング	315
5. 写真撮影	107
6. 犬の散歩	89
7. その他	217
不明	991
合計	1999

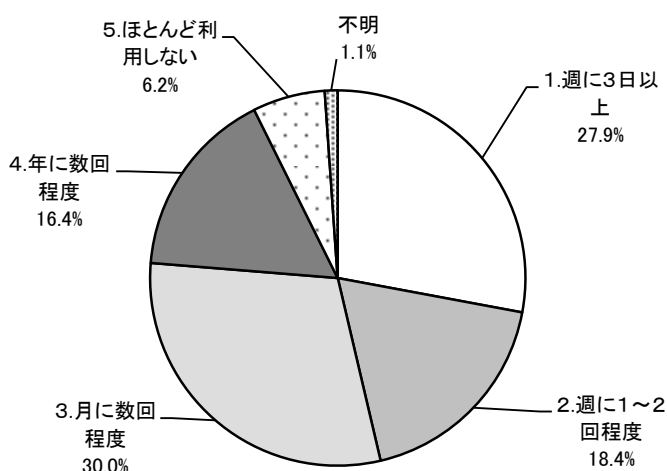


その他意見

運動(運動公園)	34
散歩	25
眺める	18
山菜取り	17
通過	17
イベント	16
ピクニック	10
クリーン作戦への参加	9
農作業	9
仕事	7

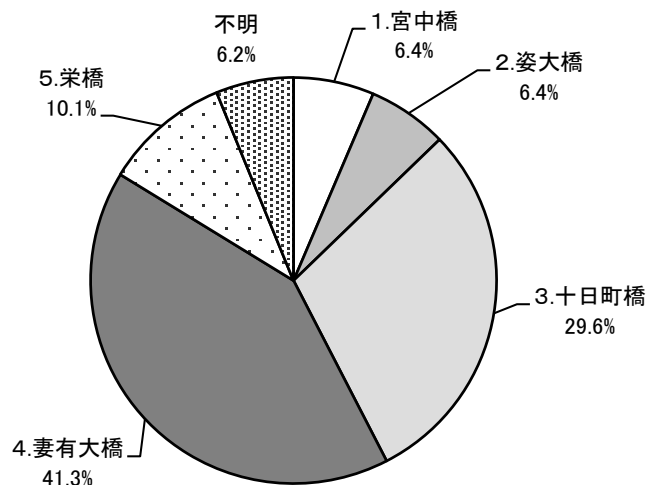
■Q8. あなたは、どのくらいの頻度で信濃川にかかる橋を利用していますか。その頻度にあてはまるものを選んでください。

カテゴリー名	n
1. 週に3日以上	457
2. 週に1～2回程度	301
3. 月に数回程度	490
4. 年に数回程度	268
5. ほとんど利用しない	102
不明	18
合計	1636



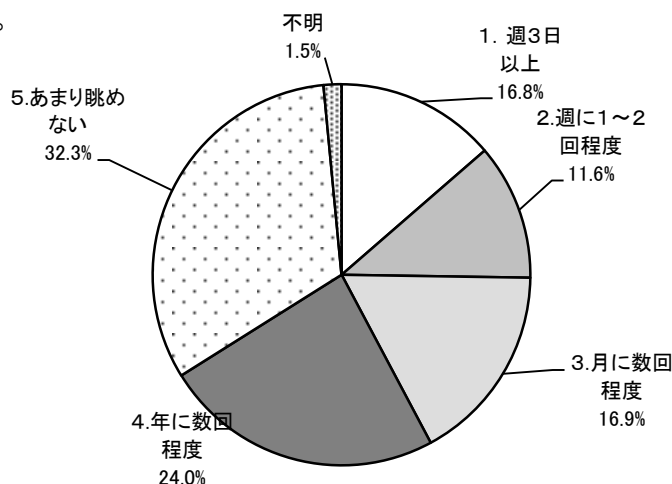
■Q9. あなたが十日町市内で主に利用する橋を1つ選んでください。

カテゴリー名	n
1. 宮中橋	105
2. 姿大橋	104
3. 十日町橋	485
4. 妻有大橋	676
5. 栄橋	165
不明	101
合計	1636



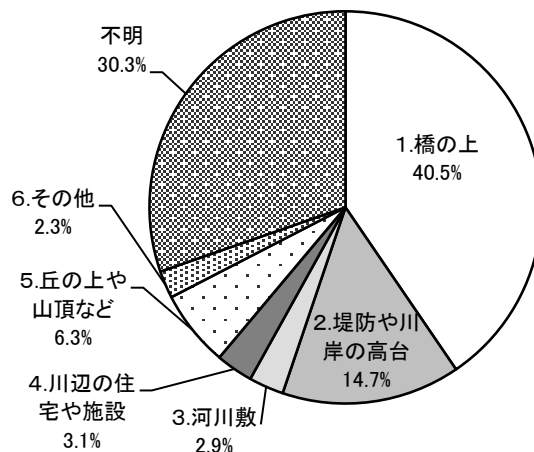
■Q10. あなたは、橋や堤防、高台などから、信濃川を眺めることはありますか。その頻度にあてはまるものを選んでください。

カテゴリー名	n
1. 週3日以上	224
2. 週に1～2回程度	189
3. 月に数回程度	277
4. 年に数回程度	392
5. あまり眺めない	529
不明	25
合計	1636



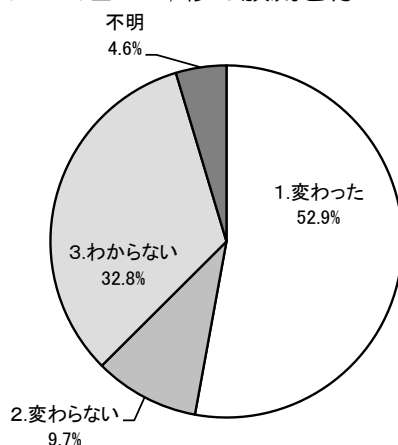
■Q11. 信濃川を眺める場所は主にどこですか。あてはまるものを1つ選んでください。

カテゴリー名	n
1. 橋の上	662
2. 堤防や川岸の高台	241
3. 河川敷	47
4. 川辺の住宅や施設	50
5. 丘の上や山頂など	103
6. その他	37
不明	496
合計	1636



■Q12. 信濃川では、平成22年7月から試験放流として40~120 m³/秒の放流を行っています。ここ数年で川の状況が変わったと思いますか。

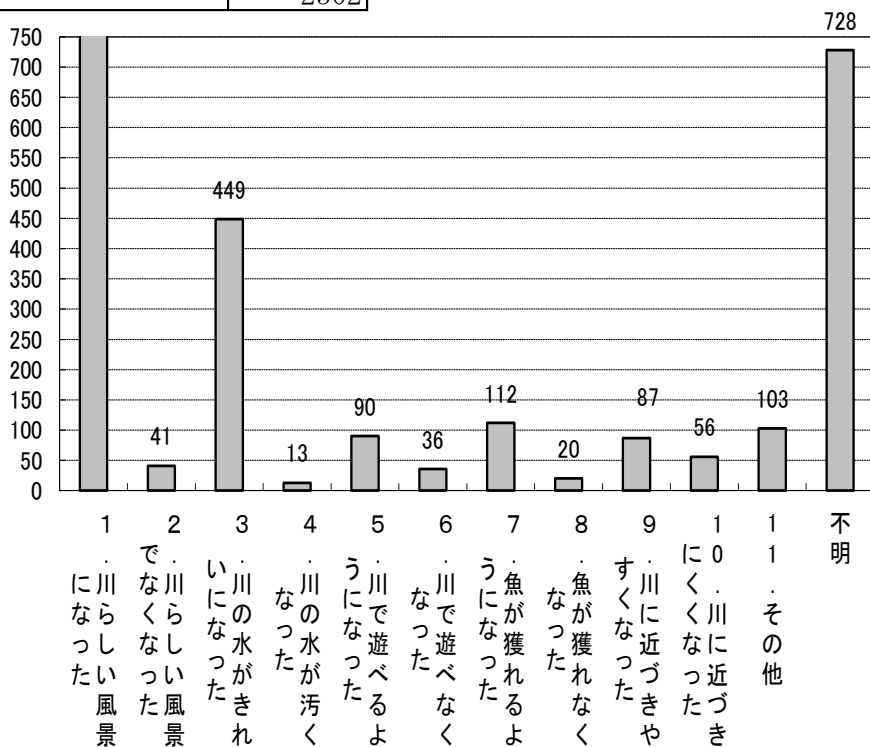
カテゴリー名	n
1. 変わった	865
2. 変わらない	158
3. わからない	537
不明	76
合計	1636



「1. 変わった」とお答えの方に伺います。

下記の1~10の中からあてはまるものをすべて選択してください。また、このほかに変わった思うことがありましたら「11」としてお書き下さい。

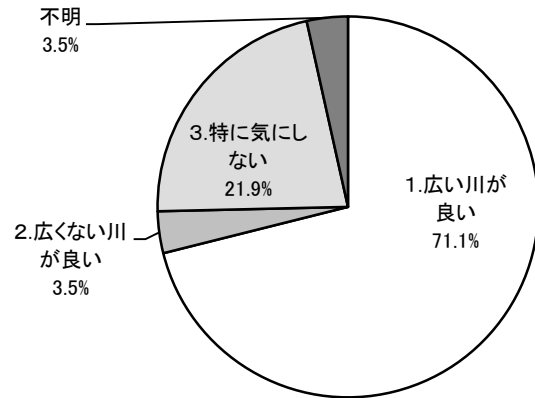
カテゴリー名	n
1. 川らしい風景になった	767
2. 川らしい風景でなくなった	41
3. 川の水がきれいになった	449
4. 川の水が汚くなった	13
5. 川で遊べるようになった	90
6. 川で遊べなくなった	36
7. 魚が獲れるようになった	112
8. 魚が獲れなくなった	20
9. 川に近づきやすくなった	87
10. 川に近づきにくくなった	56
11. その他	103
不明	728
合計	2502



■Q13. 信濃川にふさわしい景観について伺います。下記に示す（１）から（４）について、あなたの考えに近いものを1つ選んでください。

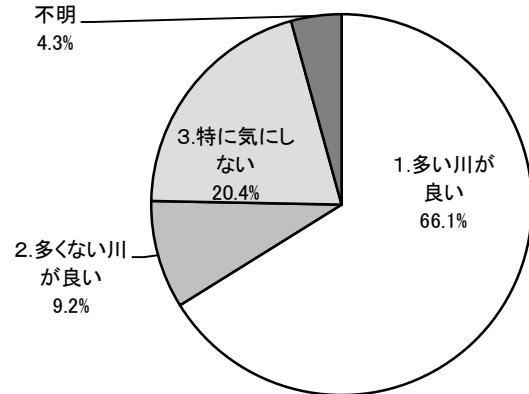
（１）信濃川の景観上、水面幅はどのようなものが良いですか

1. 広い川が良い	1163
2. 広くない川が良い	58
3. 特に気にしない	358
不明	57
合計	1636



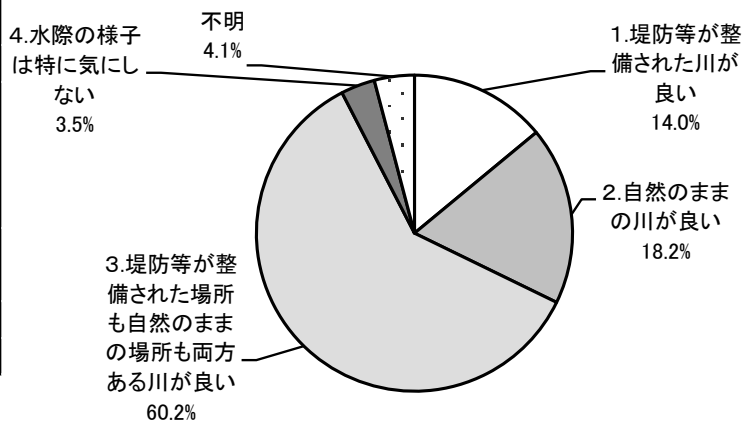
（２）信濃川の景観上、水の量はどのようなものが良いですか

1. 多い川が良い	1082
2. 多くない川が良い	150
3. 特に気にしない	334
不明	70
合計	1636



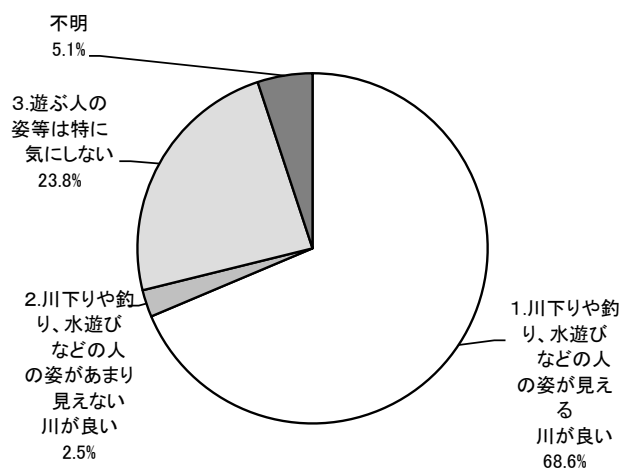
(3) 信濃川の景観上、水際の様子はどうなのが良いですか

1. 堤防等が整備された川が良い	229
2. 自然のままの川が良い	298
3. 堤防等が整備された場所も自然のままの場所も両方ある川が良い	985
4. 水際の様子は特に気にしない	57
不明	67
合計	1636



(4) 信濃川の景観上、河川内の利用の様子はどうなのが良いですか

1. 川下りや釣り、水遊びなどの人の姿が見える川が良い	1123
2. 川下りや釣り、水遊びなどの人の姿があまり見えない川が良い	41
3. 遊ぶ人の姿等は特に気にしない	389
不明	83
合計	1636



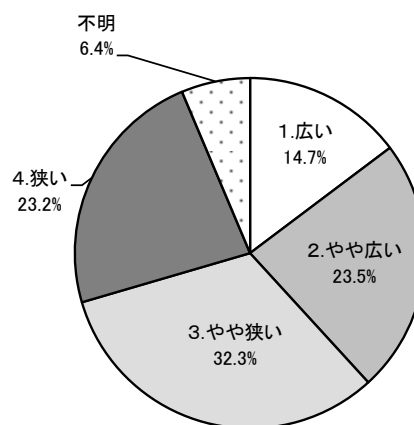
■Q14. 次の信濃川の写真Aと写真Bをご覧ください、それぞれについて右ページの(1)から(4)の項目すべてについて、あなたが感じた印象を1から4の中から1つ選んでください。



(1) 水面の広さの印象はどうか

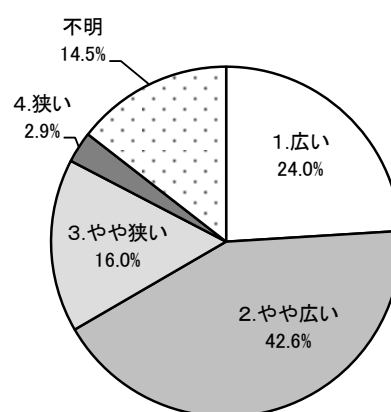
A

1. 広い	241
2. やや広い	384
3. やや狭い	528
4. 狭い	379
不明	104
合計	1636



B

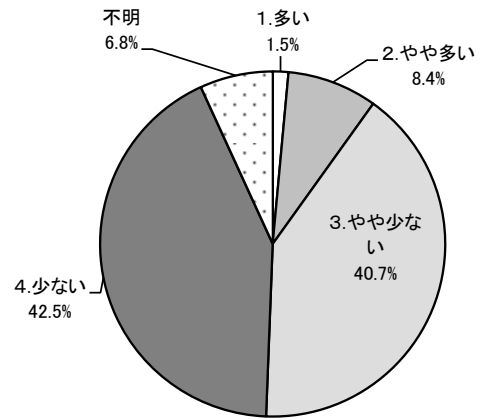
1. 広い	393
2. やや広い	697
3. やや狭い	262
4. 狭い	47
不明	237
合計	1636



(2) 水の量の印象はどうか

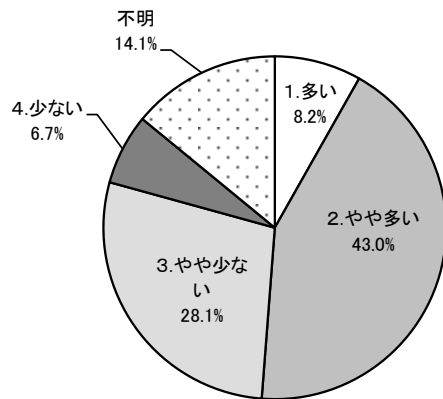
A

1. 多い	24
2. やや多い	138
3. やや少ない	666
4. 少ない	696
不明	112
合計	1636



B

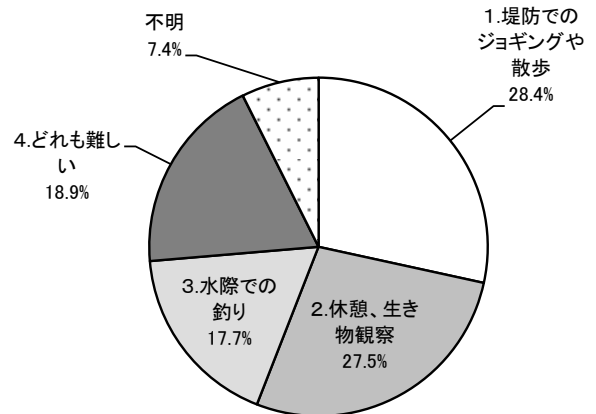
1. 多い	134
2. やや多い	704
3. やや少ない	459
4. 少ない	109
不明	230
合計	1636



(3) 水際に近づいてどんな利用ができそうですか (※下のイメージ図を参考にしてください)

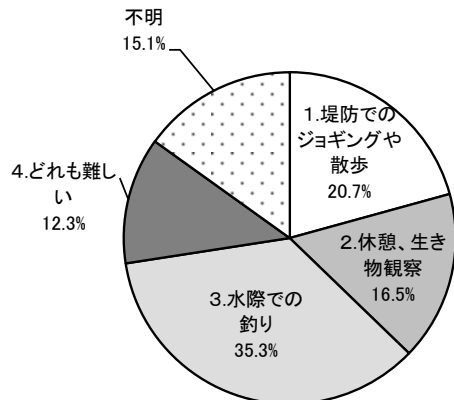
A

1. 堤防でのジョギングや散歩	465
2. 休憩、生き物観察	450
3. 水際での釣り	290
4. どれも難しい	310
不明	121
合計	1636



B

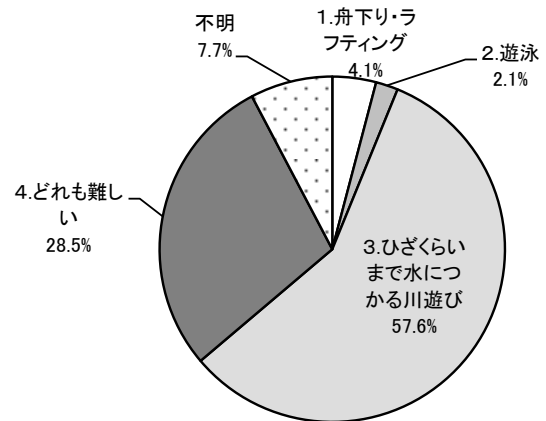
1. 堤防でのジョギングや散歩	339
2. 休憩、生き物観察	270
3. 水際での釣り	578
4. どれも難しい	202
不明	247
合計	1636



(4) 河川内でどんな利用ができそうですか（※下のイメージ図を参考にしてください）

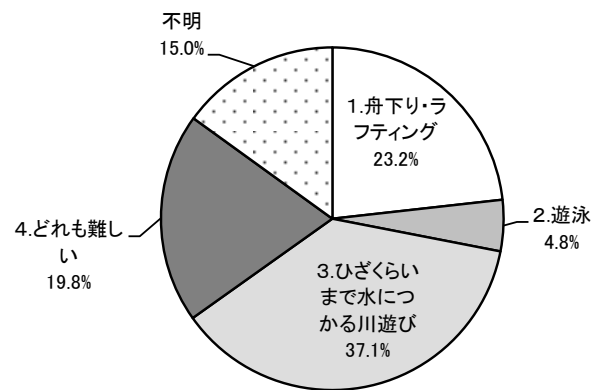
A

1. 舟下り・ラフティング	67
2. 遊泳	34
3. ひざくらいまで水につかる川遊び	943
4. どれも難しい	466
不明	126
合計	1636



B

1. 舟下り・ラフティング	380
2. 遊泳	79
3. ひざくらいまで水につかる川遊び	607
4. どれも難しい	324
不明	246
合計	1636

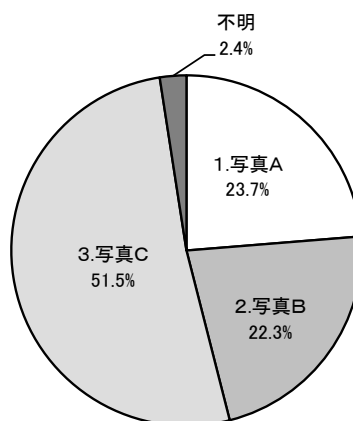


■Q15. 放流量の違いによる河川の見え方について伺います。次の(1)と(2)に示した3枚の信濃川の写真は、川の水量が違っている写真です。水量の異なる3枚の写真のうち、最も良い印象の写真はどれですか？あてはまる写真を1つ選択してください。

(1) 宮中取水ダムから下流の眺め



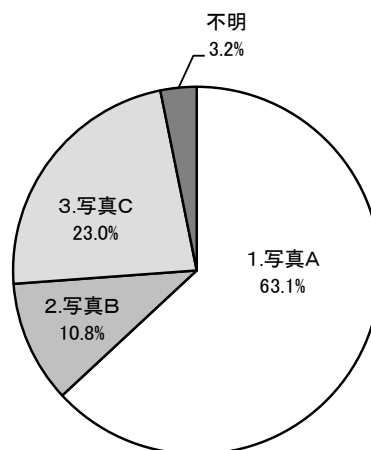
1. 写真A	388
2. 写真B	365
3. 写真C	843
不明	40
合計	1636



(2) 十日町橋から下流の眺め



1. 写真A	1032
2. 写真B	176
3. 写真C	376
不明	52
合計	1636



■Q16. 下記の5つの項目について、あなたが信濃川らしさを判断する場合、判断材料として重要だと思う順番に並べてください。

	1位 (5pt)	2位 (4pt)	3位 (3pt)	4位 (2pt)	5位 (1pt)
水面の広さ	397	423	413	232	110
水の量	504	430	290	282	63
水の流れのおだやかさ	238	336	337	324	333
水の流れの力強さ	77	141	231	302	796
周辺の風景との調和	366	242	292	418	247
不明	54	64	73	78	87



※「1位」=5pt、「2位」=4pt、「3位」=3pt、「4位」=2 pt、「5位」=1 ptとして、ポイントの平均値を算出すると、以下の順となる。

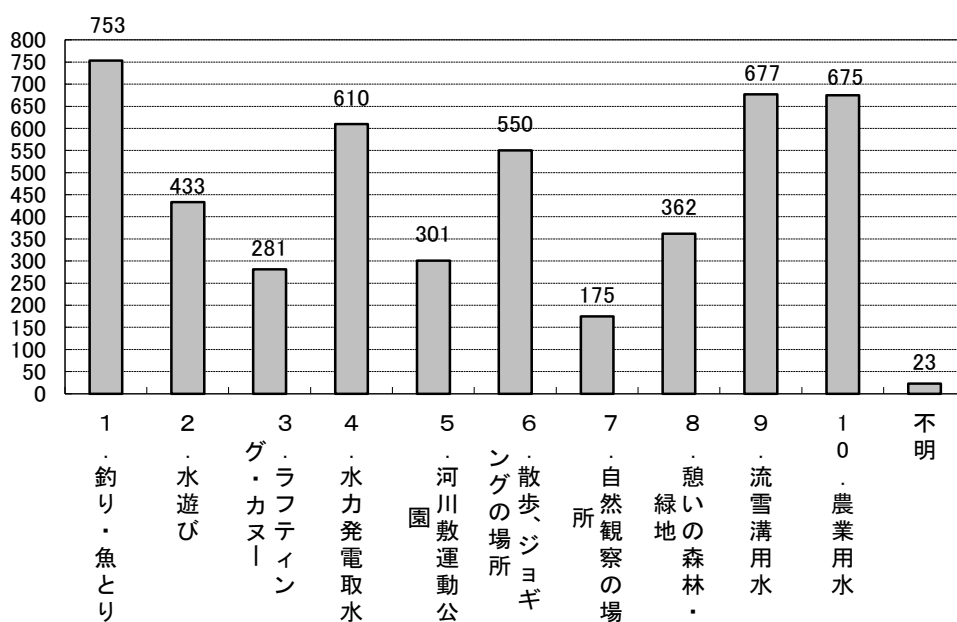
1位	2. 水の量	3.65pt
2位	1. 水面の広さ	3.47pt
3位	5. 周辺の風景との調和	3.07pt
4位	3. 水の流れのおだやかさ	2.90pt
5位	4. 水の流れの力強さ	1.95pt

※信濃川に限らず一般的な川の利活用、関わりについてお答えください。

■Q17. 次の10枚の写真をご覧ください、川を利活用している姿として重要だと考えるものを3つ選んでください。



1. 釣り・魚とり	753
2. 水遊び	433
3. ラフティング・カヌー	281
4. 水力発電取水	610
5. 河川敷運動公園	301
6. 散歩、ジョギングの場所	550
7. 自然観察の場所	175
8. 憩いの森林・緑地	362
9. 流雪溝用水	677
10. 農業用水	675
不明	23
合計	4840



■おわりに

今後、皆様が個人的に川にかかわっていくとしたら、どのような形でかかわっていききたいかお伺いします。下記の中から、あてはまるものいくつでもお選びください。

1. 川で水遊びをしたい	599
2. 釣りや漁	671
3. ラフティングやカヌー	307
4. 川の写真撮影や スケッチ	414
5. 河川敷で散歩やジョギ ング	940
6. 河川敷で犬の散歩	251
7. 動植物などの観察	400
8. 水や水辺の環境保全活動	391
9. 河川敷の運動施設など を活用	470
10. その他	157
不明	99
合計	4699

3. 調査結果のまとめ

<信濃川の利用>

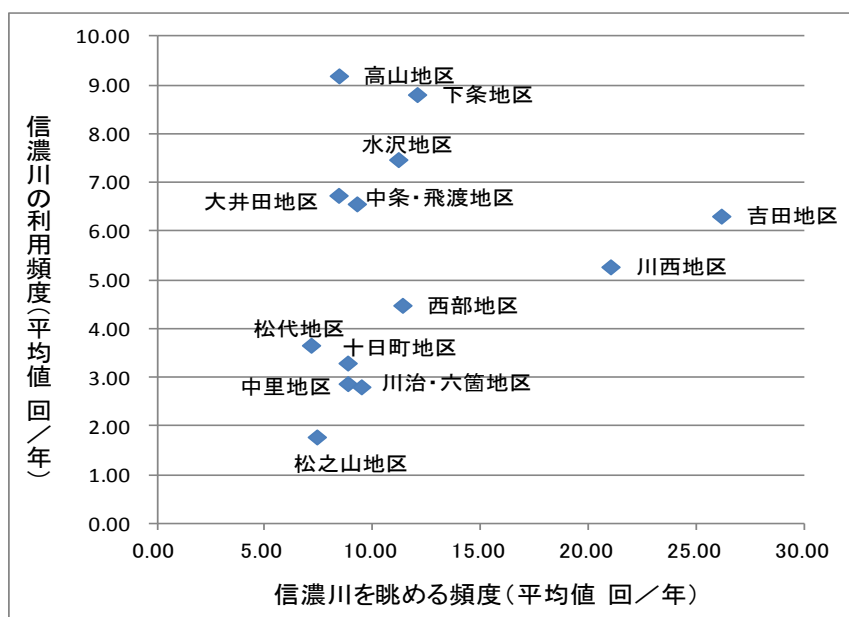
- 「めったに利用しない」人が全体の60%を超えている。ついで「年に2~3回程度」利用する人が13.3%、「月に2~3回程度」利用する人が8.3%となっている。
- 地域別にみると、「高山地区」、「下条地区」、「水沢地区」で利用頻度が高い。一方、「松之山地区」、「川治・六箇地区」、「中里地区」で利用頻度は低い。
- 利用目的としては「ジョギング・ウォーキング」の利用目的が最も多い。ついで、「川遊び」、「釣り・漁」、「写真撮影」の順となっている。
- 「その他」の利用目的としては、「運動（運動公園）」、「散歩」、「眺める」、「山菜取り」といった回答が多くみられる。

<信濃川にかかる橋の利用>

- 信濃川にかかる橋の利用頻度は、「月に数回程度」が最も多く、次いで「週に3日以上」となっている。
- 地区別にみると、「吉田地区」、「川西地区」で橋の利用が多く、「川治・六箇地区」、「高山地区」、「大井田地区」で少ない。

<信濃川を眺める頻度と場所>

- 信濃川を眺める頻度として最も多い回答は「あまり眺めない」で全体の30%を超える。次いで「年に数回程度」となっている。
- 地区別にみると、「吉田地区」、「川西地区」で眺める頻度が高い。
- 眺める場所として最も多いのは「橋の上」、次いで「堤防や川岸の高台」となっている。



※平均値は、アンケート Q6、Q8 の選択肢から算出

<流量変化に伴う川の変化への気づき>

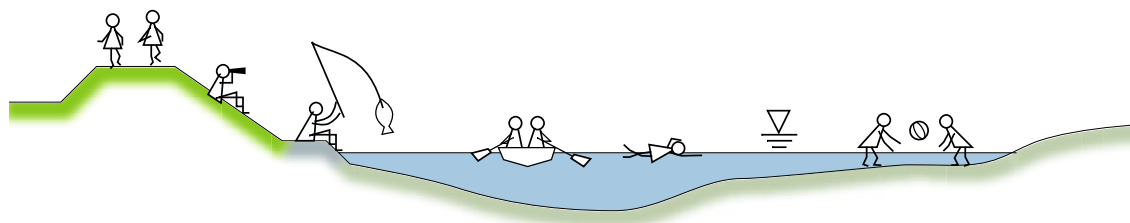
- 全体の半数以上の人々が「変わった」と回答している。
- 川との関わりによる気づきの違いをみると、橋の利用や眺める頻度が低くなるにつれ、「わからない」という回答が多くなっている。

<流量変化に伴い信濃川の変化した点>

- 変化した点として、「川らしい風景になった」が最も多く、次いで「川の水がきれいになった」となっている。
- その他の意見としては、「水量が増えた」、「川らしくなった」という意見が多くみられ、他の複数意見としては「鮭が戻ってくるようになった」、「野鳥が増えた」、「臭くなくなった」という意見があった。
- 橋を「ほとんど利用しない」・信濃川を「ほとんど眺めない」という人にとっては、流量が変化したことで「川で遊べない」、「川で魚が取れない」という印象が大きくなっている。

<信濃川にふさわしい景観>

- 信濃川にふさわしい景観としては、川幅が広く、水流が多く、堤防等が整備された場所も自然のままの場所も両方あり、川下りや釣り、水遊びなどの人の姿が見える川が望まれている。



<信濃川らしさの判断材料>

- 信濃川らしさの判断材料としては「水の量」、「水面の広さ」が特に重視されており、ついで「周辺景観との調和」や「水の流れのおだやかさ」、「水の流れの力強さ」となっている。

<川にとって重要な活動>

- 川の活用で重要なのは、「釣り・魚とり」の回答が最も多く、次いで「農業用水」、「流雪溝用水」である。続いて「水力発電取水」、「散歩、ジョギングの場所」の回答が多い。
- 上位5位のうち、河川区域内での利用は「釣り・魚取り」、「散歩、ジョギングの場所」となっている。

<流量による印象の違い>

	40 m ³ /s の写真	120 m ³ /s の写真
水面の広さ	「やや狭い」と答えた人が最も多い	「やや広い」と答えた人が最も多い
水の量	「少ない」、「やや少ない」と答えた人が半々	「やや多い」と答えた人が最も多い
水際での利用	回答の上位3位は「ジョギング・散歩」、「休憩、生き物観察」、「どれも難しい」の順となる。	回答の上位3位は「水際での釣り」、「ジョギング・散歩」、「休憩、生き物観察」の順となる。
河川内の利用	回答の上位3位は「ひざまで水につかる川遊び」、「どれも難しい」、「舟下り」の順となる。	回答の上位3位は「ひざまで水につかる川遊び」、「舟下り」、「どれも難しい」の順となる。

< 2地点において印象の良い流量 >

- 宮中取水ダムからの眺め、十日町橋から下流の眺めのいずれについても、最も流量の多い時の写真が印象の良い眺めとして選ばれている。

< 信濃川の重要な活用方法 >

- 信濃川の活用方法として、重要と思われるものは「釣り・魚とり」の回答が最も多いが、その他は「流雪溝用水」、「農業用水」、「水力発電取水」、「散歩、ジョギングの場所」など水面に直接触れる活用は挙げられていない。

< 市民が思う信濃川らしさ >

- 信濃川らしさの判断材料や、流量の異なる写真の評価結果から、市民は、水量が多い、水面幅が広いという視点で評価している。
- 川の利用については、「水遊びなどの人の姿が見える川がよい」という回答が多い一方で、水遊びやラフティングなどの河川内利用のイメージは弱く、流雪溝や農業用水、水力発電取水など、水そのものの利用イメージが強く持たれている。

4. 傾向と分析

1. 回収率・属性

回答の傾向	全体的な分析・考察	年齢別の分析・考察	地区別の分析・考察
<p>回収率 54.5%という数値は、郵送依頼、受取人払い返信、無報酬の調査としては非常に高い数値と考えられる。</p>	<p>同じ3000人の無作為抽出で平成25年3月に実施した「十日町市総合計画アンケート」の39.3%を大きく上回ったことは、<u>市民の信濃川への何らかの意識が強い現われと思われる。</u></p> <p>回答をいただいた性別が男女ほぼ50%ずつであったことから、信濃川への意識や興味は性別との関係はあまり無いものと考えられる。</p>	<p>年齢層別にほぼ同数の抽出をしたが、<u>年齢層が高くなるにつれて回答が多くなる傾向があった。</u></p>	<p>地域別に集まったサンプル数に違いが出ていることから、その地域内全体に対する一つの回答の割合の格差が出ている。(サンプル数が多い地区=十日町市地区、川西地区。少ない地区=吉田地区、西部地区。)</p> <p>今回はこの格差を考慮せずに分析する。</p>

2. 普段の信濃川との関わり

2-1. 信濃川の利用頻度

回答の傾向	全体的な分析・考察	年齢別の分析・考察	地区別の分析・考察
<p>「めったに利用しない」人が全体の62.3%となっている。次いで「年に2~3回程度」利用する人が13.3%、「月に2~3回程度」利用する人が8.3%となっている。</p>	<p>河川敷や堤防を含んでも、年1回、数年に1回の利用頻度の人をあまり利用しない部類として数えると、その割合は72%を越え、<u>利用頻度は高くない。橋の通行を除くと、市民の川とのかかわりはあまり深くないことがうかがえる。</u></p>	<p>週に1回以上利用する人の割合は年齢層が高い方が多くなっているが、比較的余暇時間が多い年齢層のジョギング、ウォーキングの利用と思われる。</p>	<p>多くの地域が「めったに利用しない」割合が半数以上で、<u>半数を超えて利用しているのは西部地区(55%)だけである。</u>松代、松之山地区については、「めったに利用しない」回答が85%を越えていたが、地理的条件が理由と思われる。</p>

2-2、信濃川の利用目的

回答の傾向	全体的な分析・考察	年齢別の分析・考察	地区別の分析・考察
<p>利用目的としては「ジョギング・ウォーキング」の利用目的が群を抜いて最も多い（48.8%）。ついで、「川遊び」、「釣り・漁」、「写真撮影」の順となっている。</p> <p>「その他」の利用目的としては、「運動（運動公園）」、「散歩」、「眺める」、「山菜取り」といった回答が多くみられる。</p>	<p>ジョギング・ウォーキング、犬の散歩、その他意見の中の山菜取りや散歩といった軽運動も同類の目的として分析すると、堤防や河川敷の利用はかなり高い割合になっており、河川内や水際での利用と差が出ている。</p>	<p>目的別に選択が多い年齢層は、川遊びは20代、釣りは60代、ラフティング等の川下りは30代、ジョギング・ウォーキングは50代とばらばらであることから、<u>信濃川は様々な年齢層から利用できる魅力を持っていると言える。</u></p>	<p>利用の形としては、ジョギング・ウォーキングがほとんどの地区で最多の回答を得ており、全体では約半数（48.8%）を占めている。<u>下条、大井田、高山、西部の順に利用者の割合が高い。住宅近くで堤防整備が比較的進んでいる地域が並んだ。</u></p> <p>一方、川遊びや釣り・漁のような水に触れる利用としては、<u>水沢、中里、松代、松之山吉田地区が多い傾向だった。</u></p>

2-3、信濃川の橋の利用

回答の傾向	全体的な分析・考察	年齢別の分析・考察	地区別の分析・考察
<p>「月に数回程度」が最も多く、30.0%、次いで「週に3日以上」の27.9%となっている。</p>	<p>橋は兩岸の交流や経済的つながりを持つものなので、背後人口の多い幹線の橋である妻有大橋、国道で交通の要所である十日町橋の利用が多い。</p>	<p>通勤、営業などの現役に近い30~50歳が多く、60歳、20歳がそれに続く</p>	<p>橋の利用では川西地区と吉田地区の利用頻度が高いが、<u>通勤による十日町中心部との行き来のためと思われる。</u></p>

2-4、信濃川を眺める頻度と場所

回答の傾向	全体的な分析・考察	年齢別の分析・考察	地区別の分析・考察
<p>最も多い回答は「あまり眺めない」で全体の32.3%、次いで「年に数回程度」の24.0%となっている。</p>	<p>眺める場所は橋の上からが40.5%で、橋として良く使われる橋は妻有大橋と十日町橋であることから、市民が最も川を眺める場所はこの2か所と言える。</p>	<p>年齢層が低い方が川を眺めない傾向が強い。橋の利用が多い年齢層でも、<u>川はあまり眺められていない。</u></p>	<p>利用頻度同様、<u>吉田地区、川西地区が多く、通勤での利用の際の眺めと思われる。</u></p>

3. 流量変化に対する気づき

3-1. 変化への気づき

回答の傾向	全体的な分析・考察	年齢別の分析・考察	地区別の分析・考察
<p>全体の半数を超える人が「変わった」と回答している。</p> <p>「変わらない」と回答した人は1割程度であった。</p>	<p>川との関わりによる気づきの違いをみると、利用頻度が高い方が川の様子が「変わった」と答える割合が高い(週1回以上78.1%、月2~3回68.2%)傾向にある。</p> <p>「わからない」との回答が3割以上あるのは、川の利用や眺める頻度が低いことからだと思われる。</p>	<p>高齢層は流量の変化を感じている回答が多く、若年層は「わからない」という回答が半数を超えている。これは、過去と現在といった、記憶の中での比較材料がある年齢層と、それが無い年齢層の違いが出たものと思われる。</p>	<p>全体で52.9%の人が川の状況が「変わった」と回答しており、地区別で多いのが、西部地区(66.7%)、水沢地区(66.2%)、吉田地区(65.8%)であった。</p> <p>一方で「変わらない」という回答でも吉田地区は最多の割合(21%)となっており、且つ「わからない」という回答が最も少ない(13%)。吉田地区は、利用や眺めの頻度が高く、川を注視していることがうかがえる。</p>

3-2. 変化した点

回答の傾向	全体的な分析・考察	年齢別の分析・考察	地区別の分析・考察
<p>「川らしい風景になった」という回答が最も多く、川の状況が「変わった」と回答した人の80%以上がこれを選択している。</p> <p>次いで「川の水がきれいになった」(51.9%)、「魚が獲れるようになった」(12.9%)と続いている。その他意見として「野鳥が増えた」、「臭くなくなった」という意見があった。</p>	<p>変化を感じている市民の多くが、現在の試験放流中の信濃川の様子を「川らしい風景」と評価していると言える。</p>	<p>70歳以上を除く年代で80%を超える人が「川らしい風景になった」を選択している。</p> <p>また、60、70歳代では、60%以上の人々が「川の水がきれいになった」とも回答しているが、これらの年代は、比較材料として過去に水を近くで見たり水に触れたりした経験がある年代であると想定される。</p>	<p>どの地域も「川らしい風景になった」の選択が多く、信濃川から離れている松代、松之山地区でも高い数値が現われた。</p> <p>吉田地区のみ「川らしい風景になった」の評価とほぼ同数「川の水がきれいになった」も選択している。</p>

4、信濃川の景観イメージ

4-1、信濃川にふさわしい風景

回答の傾向	全体的な分析・考察	年齢別の分析・考察	地区別の分析・考察
<p>信濃川にふさわしい景観としては、「水面幅が広く」、「水量が多い」川が好まれている。</p> <p>また、堤防等が整備された場所も自然のままの場所も両方あり、川下りや釣り、水遊びなどの人の姿が見える川が好まれている。</p>	<p>景観イメージでは「水量」よりも「水面の広さ」が重視されているようである。</p> <p>また、水際の様子について、川に対する意識と選択肢を関連付け、堤防＝安全・防災、自然＝環境、両立＝堤防と自然、といった形で質問しているが、<u>どの年代や地域からも堤防整備と自然のままの姿の両方が支持されていた。</u></p> <p>ここまでの回答内容から、<u>景観イメージでは、水面が広く、水量も確保された川である中で、安全のための堤防と安らぎの自然が共存し、人が安心して遊べるバランスのとれた河川の姿が望まれていることが推測できる。</u></p>	<p>「広い川」、「水量が多い川」、「堤防と自然の共存する整備」、「人の姿が見える川」が高い選択を得ているが、年齢別の傾向の差は大きくない。</p> <p>なお、「水量が多くない川」を好む回答だけを見ると、若い人ほどこれを選ぶ割合が高いのは、<u>子育て世代が、子連れまたは子どもの河川利用に対して安全性を意識する事情があると推測される。</u></p> <p>また、「堤防等が整備された川」を好む割合において最高齢の割合が他の年代よりもかなり高く、かつての氾濫からの防災的感覚が望まれていると思われる。</p>	<p>広い川を好む割合では、高山地区（81.8%）と大井田地区（82.3%）が8割を超えており、水量が多い川を好む割合では、高山地区（83.3%）と西部地区（83.7%）が8割を超えている。</p> <p>また、川の広さと水量を「気にしない」回答は、松代地区がどちらも30%を超えていた。</p> <p>ほとんどの地域で「堤防等が整備された川と自然のままの川の両方がある川」が多く支持されているし、堤防整備の支持派と自然の支持派も概ね半々であった中で、松之山地区は、「<u>自然のままの川</u>」を好む傾向が高くなっている。</p>

4-2、同じ地点で流量が違う写真から受けるイメージ

回答の傾向	全体的な分析・考察	年齢別の分析・考察	地区別の分析・考察
<p>写真からの印象比較で、広さでは、Aの40 m³/sの写真は、「やや狭い」→「やや広い」→「狭い」→「広い」の順で選ばれており、比較的意見が分かれたが、Bの120 m³/sになると、「広い」24.0%、「やや広い」42.6%で、かなり広い印象が強くなる。</p> <p>一方、水量の印象では、40 m³/sの写真は、「少ない」45.7%、「やや少ない」43.7%の2つで88%を超え、120 m³/sでは、「多い」8.2%、「やや多い」43.0%と、多い印象は約半数にとどまっている。</p> <p>水面幅、水量の印象の傾向は若干違いがある。</p>	<p>Aの40 m³/sの写真、Bの120 m³/sの写真ともに、<u>川幅が広く感じて水量はさほど多くないと感じる人がいることがわかる。浅く、川幅が広い信濃川の特徴が、これらの回答の傾向に現われているのではないか。</u></p>	<p>40 m³/sの写真A、120 m³/sの写真Bとも、年齢層の違いから分析や推測できるような大きな傾向の差はなかった。</p>	<p>川の広さについて、下条・松代・松之山は40 m³/sでも「広い」「やや広い」と感じる割合が高い傾向にあった。(約半数の割合)</p> <p>水の量については、<u>高山地区だけが、Bの120 m³/sの写真でも、半数の人が「少ない」「やや少ない」と感じていた。</u>理由として想定される要因は見つけれない。</p> <p>それ以外は地域別にて大きな傾向の差はなかった。</p>
<p>川利用でのAとBの印象の違いの回答の傾向は、水量の増加に伴い、水際利用では「釣り」、河川内利用では「舟下り・ラフティング」ができそうな印象を持つ人が増えている。</p> <p>また、河川利用の「遊泳」の選択は非常に少ない。(3.1~8.9%)</p> <p>水際での利用も河川内での利用も、水量が増加すると「不明」を選択する割合が増える。</p>	<p>河川内利用について、「不明」と「どれも難しい」の選択割合を合わせると、Aの40 m³/sで36.2%、Bの120 m³/sで34.8%と流量の違いによる選択の大差がなく、<u>信濃川では河川内利用の姿がイメージし難い市民が比較的多いと思われる。</u></p>	<p>写真Bの河川内の利用の様子において、「舟下り・ラフティング」の回答が2番目に多かったが、高齢層でもこの選択肢を選ぶ方がいた。高齢層の方が、ラフティングボートでの川下りをイメージして回答したか、渡し船での川下りをイメージして回答したか解れば、かつての信濃川の流れと重なったかどうか判断できたと思われる。</p> <p>また、「昔は信濃川で泳いで遊んだ」という言葉をよく耳にするが、<u>「遊泳」の選択は高齢層でも低いものであった。</u></p>	<p>水量の増加に伴い「釣りができそう」という回答が増える傾向は、西部地区、大井田地区、吉田地区に高く、「舟下り・ラフティングができそう」という回答が増える傾向は、下条、中里、松之山地区で高くなっている。理由として想定される要因は見つけれない。</p>

4-3、2地点、3放流量に対する印象比較

回答の傾向	全体的な分析・考察	年齢別の分析・考察	地区別の分析・考察
<p>「宮中取水ダムからの眺め」、「十日町橋から下流の眺め」のどちらについても、最も流量の多い時の写真が印象が良いとして選ばれている。</p>	<p>(1)の写真A80 m³/s、写真B40 m³/sは中洲がやや見えても手前に広い水面があるため、この2つで46%の良い印象を得ているが、(2)の写真B40 m³/s、写真C80 m³/sでは手前にブロックがはっきり確認できるため、この2つで33.8%の良い印象にとどまっている。</p> <p>川の景観イメージにおいて、中洲や、ブロックなどの構造物が見えない流れが良い印象を持たれると思われる。</p>	<p>宮中ダムからの景観では、30歳代以上は最も流量の多い写真を選んでいるが、20歳代だけが最も少ない流量の写真を多く選んでいる。30歳代は選択数の大きな差はない。</p> <p>一方、十日町橋からの景観は、いずれの年代からも流量が最も多い写真が選ばれている。</p> <p>年齢層が高いほど流量が多い写真を好む傾向がある。</p>	<p>宮中ダムからの景観、十日町橋からの景観とともに、<u>松代、松之山地区では良い印象が分散する傾向にあった。</u></p> <p>また、宮中ダム下流の眺めにおいて、<u>西部地区だけが40 m³/sの写真を選ぶ割合が極端に低かった。</u></p> <p>理由として想定される要因は見つけられない。</p>

4-4、信濃川らしさの判断材料

回答の傾向	全体的な分析・考察	年齢別の分析・考察	地区別の分析・考察
<p>信濃川らしさで重要視される判断材料は、「水の量」→「水面の広さ」→「周辺景観との調和」→「水の流れのおだやかさ」→「水の流れの力強さ」の順となっている。</p>	<p>川の流れ方の様子である「おだやかさ」や「力強さ」は、信濃川らしさを判断する材料にはなり難いと思われる。</p>	<p>40歳代以上の年齢層は水面の広さや水量を判断材料にしている一方、20、30歳代では「周辺風景との調和」を判断材料の1位にしているという結果になっている。若年層は、<u>景観として川周辺の自然も重要という見方をしている。</u>前項の4-3における宮中ダム下流の景色の好みとつながるのかもしれない。</p>	<p>1位の選択肢の地域別内訳をみると、「水面の広さ」では、大井田地区が37.7%と最も高い。</p> <p>また、「水量」では西部地区が44.2%、「周辺との調和した風景」では中条地区が33%と最も高い。</p> <p>特に目立って他地区と傾向が異なる地区は無かった。</p>

5. 川との関わり方(重要な利活用の姿)

回答の傾向	全体的な分析・考察	年齢別の分析・考察	地区別の分析・考察
<p>川の活用で重要なのは、「釣り・魚とり」の回答が最も多く、次いで「流雪溝用水」、「農業用水」、「水力発電取水」、が大差なく選択され、次いで「散歩、ジョギングの場所」となっている。</p>	<p>釣りや魚とり以外では直接川の水に触れる利活用のイメージは弱く、流雪溝や農業用水、水力発電取水など、生活に必要な水の利用のイメージが強い。 堤防や河川敷の利用よりも水そのものを利用する写真が選択されていることから、「川の利用」＝「水の利用」という意識を持つ人が多いことがわかる。</p>	<p>20～50歳代は「釣り・魚とり」を最も重要視しており、60歳代は「農業用水」、70歳代は「流雪溝用水」を最も重要視している。 40～70歳代は、この3つが上位に選ばれる傾向は同じだが、20、30歳代では、「水力発電取水」が2番目、3番目に選ばれている。若い世代の方がエネルギー利用を意識している傾向がある。</p>	<p>地域的には、最も多く選択されているものにばらつきはあるが、上位に選択される項目の傾向に大差はない。 強いて言うならば、下条地区のみ、全体での順位が5番目の「散歩、ジョギングの場所」が最も多く選択されている。この理由については明確に判断ができない。</p>

6. 全体をととした分析

回答者により、普段の生活の中での川との関わり方の差があると思われるが、全体の傾向として河川を利用しない市民が圧倒的に多い。回収率からうかがえる信濃川への意識の高さの一方で、川を利用しない、眺めない人の割合を考えると、市民の信濃川に対する思いと河川利用の実態は比例していないと考えられる。

理由として考えられることは、川そのものへの興味の有無があげられると考えるが、もうひとつ、小千谷市から新潟市までの下流部と違い、川が市街地から離れていて、利用や眺望の機会が少ないことが影響しているとも考えられる。

回答者の半数以上が信濃川の状況が「変わった」と感じているが、その中では「川らしい風景になった」という回答が最も多く、8割以上の人々がこれを選択している。現在の試験放流中の信濃川の様子について、市民は川らしい風景になっていると判断していることがうかがえる。また、「わからない」との回答が34.4%あったが、川の利用頻度が少ないほどこの回答が増えているため、どんな形でも信濃川に触れる取り組みが増えれば、川をより身近に感じてもらえるようになると思われる。

市民が思う信濃川らしさの指標としては、水の量が豊富で水面幅が広いことが重視されている。また、その他の自由回答意見から、「日本一の川」、「大河」というキーワードがみられることから、水量や水面幅のイメージは信濃川らしさにとって重要と思われる。一方で、Q13の河川内の様子に対する回答では、「水遊びなどの人の姿が見える川」が好まれており、Q16の信濃川らしさの判断材料においては、「流れの力強さ」よりも「流れのおだやかさ」が好まれていることから、「安全な川」のイメージが伝わる景観が望まれていると考えられる。景観としては水の量が豊富で水面幅が広いなかでも、水と触れ合える親しみやすい川の姿が求められている。

信濃川の景観と利活用の姿を関連付けて考えると、水面の広さや水量の多さを重要視している一方で、「川の利用」＝「水の利用」という意識も高いことから、川の環境とのバランスを維持しながら河川を有効活用していくことも市民の意識の中にあるものと考えられる。